

科目名	病態学総論	対象学年・時期	1年・後期
講師	非常勤講師	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>「病態」とは、病気の状態のことであり、生体はその形態を変化させ機能に障害を起こした状態のことである。病態の成り立ちや機序、成り行きは疾患により異なり、全身に及ぼす影響からさまざまな症候や症状が現れる。観察をすることで体内でどのようなことが起きているのか、今後どのようなことが起きるのか予測する力を身につけることは重要である。</p> <p>ここでは、疾患の原因と疾患による生体の変化の特徴、および形態・機能の病態の機序を理解することをねらいとする。</p>		
授業形態	講義		
学習目標	1. 身体障害された機能が全身に及ぼす影響が理解できる。 2. 疾病の成り立ち、機序を形態面から理解できる。 3. 器官・組織・細胞の形態変化と機能異常を関連付け理解できる。		
授業計画	<p><b>第1章 病理学で学ぶこと</b>  ・看護と病理学（病理学を学ぶ意義）・病気の原因</p> <p><b>第2章 細胞・組織の損傷と修復、炎症</b>  ・細胞、組織の損傷とその原因   ・細胞の適応現象   ・細胞の死   ・細胞、組織の変性  ・炎症反応   ・創傷治癒   ・炎症の分類と治療</p> <p><b>第3章 免疫、移植と再生医療</b>  ・免疫と免疫不全   ・アレルギーと自己免疫疾患   ・移植と再生医療</p> <p><b>第4章 感染症</b>  ・感染症の成立と発病</p> <p><b>第5章 循環障害</b>  ・浮腫   ・充血とうっ血   ・出血と止血   ・血栓症   ・塞栓症   ・虚血と梗塞  ・門脈圧亢進症   ・DIC</p> <p><b>第6章 代謝障害</b>  ・脂質代謝障害   ・タンパク質代謝障害   ・糖質代謝障害</p> <p><b>第7章 老化と死</b>  ・老化のメカニズムと細胞、組織、臓器の変化</p> <p><b>第8章 先天異常と遺伝性疾患</b>  ・遺伝と遺伝子   ・遺伝情報の変化、多様性   ・先天異常   ・遺伝子の異常と疾患</p> <p><b>第9章 腫瘍</b>  ・定義と分類   ・悪性腫瘍の広がりや影響   ・腫瘍の発生機序と発生因子   ・診断と治療</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野「病理学」第6版第4刷 大橋健一（著者代表）医学書院 【参考書】…適宜、講義内で提示する。講義時に資料を配布する場合もあり。		
事前・事後学修	特に解剖生理学の知識と繋げて理解するために、予習・復習を欠かさず行うこと。		
評価基準および評価方法	筆記試験で評価		
備考	この科目は、2名の講師が担当する。担当箇所（担当する単元）については、別途通知する。		